



谷口 和弥 議員  
(5期の会)



7月23日には管内全域に、道内で今季初の「熱中症警戒アラート」が発表された。幕別町はその翌日、町民の熱中症対策として暑さをしのげる「幕別町役場庁舎」、「図書館本館」、「図書館札内分館」、「図書館忠類分館」、「札内コミュニティプラザ」、「道の駅・忠類」の6町有施設を「クールスポット」として開設し、各施設の開館時間内はいつでも利用ができるとした。ついては以下の点を伺う。

- (1) 熱中症などによって体調不良になつたと把握している町民の数は。
- (2) 幕別町が町民に対して実施した熱中症予防対策は。
- (3) 「クールスポット」として利用した各町有施設の利用状況は。
- (4) 来年度新たに「クールスポット」として開設する町有施設を増やす考えは。
- (5) 高齢者世帯を対象にエアコン購入費の助成事業を実施する考えは。

町長

(1) 熱中症は医師による問診と診察

問 夏場の暑さから町民の健康を守る対策の強化を

答 町ホームページや広報紙による熱中症予防に関する注意喚起を行っている

で診断されることから町として発生状況を把握することはできないが、熱中症およびその疑いによりとかち広域消防局が119番通報を受け、幕別消防署が出勤し救急搬送された人数は、本年8月末現在で8人、令和5年が36人、4年が8人、3年が12人、2年が11人と聞いている。

(2) 町ホームページや広報紙による注意喚起のほか、地域ケア会議などさまざまな機会を通じて高齢者に対する熱中症予防に関して周知の協力依頼を行っている。

十勝地方全域に熱中症警戒情報が発表された7月23日には、防災行政無線や登録制メールなどで注意喚起したほか、翌24日には、町有施設6か所をクールスポットとして設置した。

(3) クールスポットは日常的に開放している施設であり人数は把握しきれっていないが、図書館本館では涼みに来た方がいたとの報告を得ていることから、一定程度の利用があったものと認識している。



暁町近隣センターでは、同運営委員会が管理する会計からエアコンが設置された

(4) 来年度に向け、本年度の利用状況の精査と冷房設備を有する36施設の活用を再検討するとともに商業施設など民間施設に対する協力の要請も含め、利用可能な施設の拡大に向けて取り組んでいく。

(5) 現時点では高齢者世帯のみを対象とした助成は考えていないが、本年度から実施している町ゼロカーボン推進補助金などの支援制度を活用していただくとともに、地域での見守りや声掛けなど情報発信の強化を通じて、町民の健康を守る取組に努めていきたい。

問 空き店舗対策の指定区域を広げ、賑わいを確かなものに

答 空き施設利用サポートセンターを最大限活用していく



賑わいのある商店街づくりのために、幕別地域、札内地域、忠類地域の中心市街地に指定区域を設定して、その区域内で空き店舗等を購入または賃借して出店する個人、法人または商店街団体等に「商店街活性化店舗開店等支援事業補助金」を交付している。令和6年度からは、「改修費の補助限度額を300万円に引き上げる」などといった点を変更した。ついては以下の点を伺う。

(1) 令和6年度の当該補助金の交付状況は。

(2) 当該指定区域を拡大する考えは。

町長

- (1) 令和5年度に事業を開始した2件の改修費分50万円と家賃分16万6700円、4月に事業を開始した1件の改修費分50万円と家賃分12万4750円の合計3件、129万1450円(8月末現在)を交付した。すべて幕別地区である。
- (2) 当面は現在の指定区域を拡大する考えはない。引き続き専任の地域おこし協力隊員を配置した「空き施設利用サポートセンター」を最大限活用し、取り組んでいく。